

低炭素都市・地域づくり研修

< 21年度新規研修 >

本研修の目的

「ご承知のとおり、CO2削減は、世界的な課題となっております。我が国でも、これまで、個別政策分野毎に、CO2削減の取り組みが進められてきましたが、より大幅な削減を図るためには、社会全体を低炭素型に変えていく必要があります。

そのためには、これまでの単体対策を、都市・地域がそれぞれの特色を活かし、総合的かつ計画的な政策へ転換し、行政や民間や住民など多様な主体が参画して、低炭素型の都市・地域づ

くりを目指すことが求められてきています。

特に、行政には、これまでの都市部局だけ、環境部局だけというような縦割りのな政策ではなく、分野横断的な視点に立った総合的な政策形成が必要となつてきています。

本研修では、講義や「環境モデル都市」などの様々な取組事例を通じて、低炭素型の都市・地域づくりに関する幅広い知識を得るとともに、実際に、グループで政策立案演習をしていただくことで、行政がどのような視点を持つことが必要なかを考えてもらうことを主眼としています。

研修の概要と特長

本号の特集でもご寄稿いただいた都市計画学会の小澤一郎氏の基調的講義に始まって、国・自治体・民間・学識者等の様々な視点からの事例を中心とした講義に加え、グループ討議を通じて、実際に政策を考えていただく構成となっております。

その中から、いくつか、その特長をご紹介します。

【環境モデル都市の取り組み】

平成二〇年度からスタートした「環境

平成21年度 低炭素都市・地域づくり研修 時間割

月日	講義時間	教科目	講師
11 / 24 (火)	10:30 - 11:00	受付	
	11:00 - 12:00	開講の挨拶・オリエンテーション	
	13:00 - 14:30	1.5 低炭素社会形成と都市計画	社団法人都市計画学会 低炭素社会実現特別委員会委員長 小澤 一郎
	14:40 - 15:40	1.0 低炭素都市・地域づくりと国土交通行政	国土交通省 総合政策局環境政策課 課長補佐 鈴木 通仁 都市・地域整備局都市・地域政策課 課長補佐 北村 智顕
11 / 25 (水)	15:50 - 17:30	1.5 低炭素都市づくりガイドライン(素案)について	国土交通省 都市・地域整備局 都市計画課 企画専門官 鎌田 秀一
	9:00 - 10:20	1.5 住宅・建築物の省エネルギー対策	国土交通省 住宅局 住宅省エネルギー係長 後藤 邦彦
	10:30 - 12:00	1.5 CASBEEの概要と活用事例	財団法人建築環境・省エネルギー機構 建築研究部 課長補佐 吉澤 伸記
	13:00 - 14:30	1.5 事例研究 環境モデル都市(ハイブリッド・シティ)とよたの取組	豊田市経営政策本部 環境モデル都市推進課長 阿久津 正典
11 / 26 (木)	14:40 - 16:10	1.5 事例研究 環境モデル都市(富山市)の取組	富山市 都市整備部 都市政策課長 俣本 和夫
	16:20 - 17:50	1.5 事例研究 東京都の気候変動対策について - 温室効果ガス総量削減義務と 排出量取引制度を中心-	東京都 環境局 都市地球環境部 排出量取引係長 千葉 稔子
	9:00 - 10:20	1.5 低炭素都市づくりにおける 自転車活用方策	株式会社信基礎研究所 研究理事 古倉 宗治
11 / 27 (金)	10:30 - 11:50	1.5 低炭素社会を実現する 地域エネルギーシステム	横浜国立大学大学院 環境情報研究院 教授 佐土原 聡
	13:00 - 14:30	1.5 事例研究 自然と調和した街づくり - 街区まるごとCO2削減 -	大和ハウス工業株式会社 環境部 企画・温暖化対策推進グループ長 小山 勝弘
	14:40 - 17:40	3.0 グループ討議 【課題:低炭素都市・地域づくり を進める上での課題と方策】	
11 / 27 (金)	9:00 - 10:30	1.5 CO2とブランディング	株式会社博報堂 環境コミュニケーション推進室 プロデューサー 野村 秀之
	10:40 - 12:30	2.0 全体討議 【課題:低炭素都市・地域づくり を進める上での課題と方策】	国土交通省 総合政策局環境政策課 課長補佐 鈴木 通仁 都市・地域整備局都市・地域政策課 課長補佐 北村 智顕
	12:30 - 12:45	閉講式	

モデル都市」に選定された豊田市と富山市の二都市の事例を取り上げました。

豊田市さんからは、三つの領域を機軸(「交通」「産業」「森林」)に「人と環境と技術の融合(ハイブリッド)」による活力のある低炭素社会をめざす「ハイブリッド・シティとよたプラン」の取組概要をお話しいただきました。

富山市さんは、コンパクトシティ、LRTですでに有名ですが、公共交通軸を中心としたコンパクトなまちづくりを進めていく中で、低炭素社会につ

ながる取り組みを進めていくことを主眼とされています。公共交通を串に、その串に連なる徒歩で生活できるまちをお団子に各々例えた「お団子と串の都市構造」の考え方、JR高山本線活性化の社会実験など、公共交通の活性化と沿線居住を推進する取り組みは、受講者にとっても印象深いものになりました。

両市の担当課長様のお話は、グループ討議のヒントにもつながったと思います。また、今後の課題として、低炭



本誌ご執筆の小澤講師を囲んでの記念撮影

素都市づくりを進めることが満足度の高い暮らしにつながるということや市民に共有してもらおうことが、大きな課題として挙げられていました。恐らくここが、低炭素都市・地域づくりを進める上での大きなポイントではないかと思います。

【コンコランディング】

低炭素都市・地域づくりを進めていくためには、住民を含めた地域の多様な主体の参画をどう進めていくかが一つの課題です。そのためには、どう伝えるていくかなどの情報発信も重要なツールの一つです。

そこで、博報堂の野村秀之氏から

企業の環境に対する取り組みの広告事例をもとに、環境・社会テーマのコミュニケーションを企画する際のチェックポイントをお話しいただきました。特に、「活動を簡潔に伝える」「活動の象徴をつくる」「活動を持続可能なものにする」「気軽に参加できる仕組みをつくる」「参加するプロセスを楽しくする」「様々な人を活動に取り込む」「人々と対話しながら作り上げる」「人々の連帯感を可視化する」などのキーワードは、企業に限らず、行政が住民と一体となって取り組みを進める上でも大変参考になるキーワードになったのではないのでしょうか。

【グループ討議・全体討議】

受講者を三つのグループに分け、二〇二〇年までに三〇%、二〇五〇年までに八〇%のCO₂削減を目標とした低炭素都市・地域づくりの「ビジョン」を実際に立案していただく政策立案演習をしていただきました。グループ毎に、仮想市における地理的条件、都市構造、産業構造、財政状況等の前提条件を設定し、課題や強み、弱みなどを抽出して、これらを踏まえた提案施策をまとめ最終日の全体討議の時間に発表してもらいました。ここでは、国土

交通省の担当者からの質問や講評も交えながら、参加者全体で議論しました。難しいテーマではあったかと思いましたが、受講者同士での活発な意見交換が見られ、夜遅くまで議論を重ねておられました。グループ毎に各々特長があり、限られた時間の中で良くまとめられていた。講義での知識の確認や受講者間の経験の共有につながったのではないかと感じています。

受講者の評価

本研修は、分野横断的な政策テーマでもあることから、都市、道路・交通、環境、政策、建築の各担当から技術・事務職が集まり、多種多様な方々の受講者構成となりました。専門分野が色々な受講者に満足してもらえるの不安でしたが、様々な視点(国、自治体、民間、学識者等)から先進的な事例や今まで知らなかった知識を学べ、内容の濃い有意義な研修であった。「自分の専門以外についても幅広く知識が修得できて有意義だった」などの評価を得ました。

また、「博報堂の講義は、住民目線を考える上で、行政にも参考となるべき内容で大変勉強になった」「具体的な事

例を中心とした講義、受講生で討議し、具体的な施策を考えるというグループ討議など非常に得るものがあつた」など、こちらが意図した点に対して良い評価をしていただきました。

おわりに

今回、新規研修として産みの苦しみがありませんでしたが、比較的良好評価をしていただけたのは、新しいテーマであり、受講者が自らの業務等に関連して、基本的な知識、幅広い知識を得たいという目的意識を持って参加されていたこと、事例中心の講義であったこと、様々な専門分野の方の参加によりグループ討議で色々な視点での意見交換ができたことなどが、感想から伺えました。研修は、作る側だけではなく、参加される側と一緒に作り上げるものと改めて感じたところです。

さて、平成二年度は、十一月十五日から十九日までの五日間での実施を予定しております。受講者から頂いた要望等を踏まえ、より充実した研修を目指していきたいと考えておりますので、皆様のご参加をお待ちしております。

☆本研修のお問い合わせは、当センター研修局
(☎〇四二一三三四一五三二五)までどうぞ。

